

完遂

3 学年通信

第5号



令和元年 12月 16日発行
福岡県立久留米高等学校
校長 木本 和宏
第3学年主任 新木 幸子

「今までやってきたことを継続しよう」

5組担任 尾崎 和則

3年2学期が終わろうとしており、高校生活が本当に残り少なくなってきました。そして、センター試験まであと33日となりました(12月16日現在)。さて、調子はどうでしょうか。この時期、「不安が全くない」という人はいないでしょうし、受験生の気持ちとしては「不安で不安でしかたがない」が当たり前です。誰もがその気持ちを持ちつつ当日に向け努力をしています。不安を解消するには今までやってきたことを継続していくことしかありません。新しい参考書などに手を出していませんか?今まで多くのテキストやプリント等で学習を重ねてきたことと思います。それらをもう一度(3度目、4度目であっても)見直していきましょう。また、夜型の生活のままになってはいませんか。センター試験は早い人で9:30、遅い人でも10:40が試験開始です。この時間に頭がすっきりした状態で試験に臨むことが大切です。

追い込みの時期となりますが、それ以上に体調管理も大切になります。試験時間にベストの体調で臨めるようにしっかりと自己管理をしていきましょう。世間は、クリスマス、年末、年始と慌ただしい時ですが受験生には関係ありません。一日一日を大切に過ごしていこう。そして、第一志望校の合格をつかもう!!

「日日是好日」

6組担任 菅谷 嘉奈子

穏やかな秋の日に、森下典子さんのエッセイ「日日是好日～「お茶」が教えてくれた15のしあわせ～」を読みました。この本の冒頭にこのようなフレーズがあり、とても心に響きました。

「世の中には『すぐわかるもの』と『すぐわからないもの』の二種類がある。すぐにわからないものは、長い時間をかけて、少しずつ気づいて、わかってくる」

今、皆さんは目の前に迫った試験に合格するため必死でしょう。私も高校3年生の時はその通りでした。1点でも多くとるために必要な知識を詰め込むことに精一杯で、その先にどんなことが待っているかなんて想像する心の余裕はありませんでした。私は、国語がひどく苦手で、筆者の意図が分からない問題にぶつかるとすぐに解答を見ていました。解答を読んでもぼんやりとしか分からず、学習している意味が見いだせなかつ

たほどです。しかし、マスコミ志望で就職活動をした大学4年生の時に、高校時代に読んだ作品にもう一度出会う機会がありました。すると不思議なことで、あんなに作品のよさがわからなかったのに、ずとんと理解できる箇所が増えていたのです。その瞬間、心から感動したのを今でも覚えています。単に辞書や誰かから教えられた意味を頭で理解するのは異なり、いうなれば「言葉を体験する」という感覚でした。新たな学びの形を知った瞬間でした。

情報過多の現代では、携帯で検索すると、ある程度の答えに辿り着くことができるようになりました。しかし、私達は心をもった人間です。自分の感情の揺れを感じながら、慰められたり、悲しくて涙したり、喜んだり、笑ったりする中で「学び」を体感できる人でいたいですね。そのために、今はとても苦しいけど大切な時期です。今は、そんなこと考えられないと思うけど、目の前に起こる良きことも悪しきことも、すべて受け止め、その一瞬一瞬を全身で受け止めるなら、後から振り返ると「すべて良き日だった」と思える瞬間が来ます。そんな豊かな人生になりますように。一緒に頑張りましょう。

「牛の歩みの確実さを」

1組副担任 小林 修

「受験勉強」という思い出されるのが、今から40数年前のことです。私は、受験科目の中で何といても英語が最も苦手でした。当時外語大の学生だった兄に相談すると、「コツコツやれば分かるようになる」という答えしか戻ってきませんでした。「コツコツやる」イコール時間の浪費という考えでいた私には、兄からのアドバイスに対して、「受験がせまっているのに悠長な考えだ」という反発しか抱きませんでした。

結果的に英語ができずに浪人することになった私は、「このままではいけない。何とか自分を変えなくては」と考えました。そんな時に、また兄の言葉が頭をよぎりました。そして、今度は、「コツコツやる」という言葉を、たとえ牛の歩みのように時間はかかっても、もう一度基礎から検証することと解釈しました。それは言い換えれば、不十分な自分自身を点検することだと気づいたのです。そういう風に割り切ると、1か月そこいらで英語の成績がグングン伸びてゆきました。もちろん初めが悪かったから「人並みになった」ということですが、私にとっては目の前がパッと明るくなったような気がしました。それは、まさに「ソクラテスの無知の知の自覚」に通じるものでした。君たちも、焦っているときほど「コツコツやる」という確実な勉強を大切にしたいと思います。まだまだ時間はありますよ。焦らずに。

* 学校行事 *

12月20日(金)～27日(金)	冬課外
1月6日(月)～7日(火)	冬課外
1月8日(水)	始業式
1月11日(土)	久セミ
1月18日(土)～19日(日)	センター試験
1月20日(月)	センター試験自己採点
1月25日(土)～26日(日)	三者面談
2月3日(月)～	直前講座開始
2月29日(土)	卒業証書授与式予行、同窓会入会式
3月1日(日)	卒業証書授与式



センター試験まであと1ヶ月！各教科からのアドバイス

いよいよセンター試験まであと1カ月です。この1カ月の過ごし方で合否が決まります！この追い込み時期は何をすれば効果的なのか各教科の先生方から学習のアドバイスをもらっています！



国語科

現代文は、本文との整合性があるか、設問の答えとして適切か、他の選択肢と比較して最も適切な解答かという3点で考えよう。古文・漢文は、基礎的な知識を固めるとともに、文脈に即した読みを心がけよう。演習→解きなおし→復習→定着→また演習。この日々の積み重ねしかありません。そして何より、80分という時間の感覚を身につけ、最後まで粘り強く文章と向き合う集中力を養うこと。やはり最後は合格を勝ち取りたいという気魄がものを言います。

数学科

センター試験を受けるために必要な公式はすべて頭に入っていますか？「重要問題演習」付録の公式・解法集等を見直し、頭の中を整理整頓してください。その後は、センター実践問題を授業中にやっているはず。その出来なかったところを見直し、解き直しを徹底的におこなってください。特に、解説にあるPOINTはきちんと目を通すようにしましょう。また、今やっている1日1題（データの分析）は、数学I・Aの得点アップに必ず繋がります。解答をよく読み理解を深め、短時間で解けるよう復習をしっかりとこないましょう！センター試験は、時間配分がとても重要です。毎回の実践問題演習を本番だと思って真剣に集中して取り組んでください。

英語科

センターでは各大問で安定して得点することが重要。点が伸び悩んでいる人は「長文問題での失点」が原因であることが多い。弱点をしっかりと捉えて、自分に合った学習法を確立しよう。問題演習を通して、大問毎の時間配分や解答の順番など、自分なりの最良のやり方を探ること。また、復習に時間を割き、確実に弱点を補強していく。 **大問1** 発音アクセントのルールを身につければほぼ満点が可能。 各問題集の付録などを活用しよう。カタカナ英語は特に注意。 **大問2** とにかく、Vintageの復習。 **大問3** A) テーマやディスコースマーカーに着目し、不自然なものを探す。B) 得点源。各陳述の最初と最後に注意。 **大問4** A) 苦手意識を持ち、時間をかけても得点できない場合、時間配分を守り、深追いしない。また、後に回すのも一つの手である。B) 必要な情報を検索すること。 **大問5大問6** 設問1のリード文⇒本文を読む（設問の答えがわかるころまで）⇒解答する の繰り返し。各パラグラフ毎に一口メモを書いておくと役立つ。ターゲットの見直しを毎日行い、語彙力の強化に努めること。 **リスニング** CDを最大限活用し、出題形式や音声に慣れること。fastバージョンの活用も効果がある。

社会科

公民・・・抽象的な用語が多いため、設問の読解力が必要な人も多いようです。様々な過去問を解き、解説をしっかりと読もう。設問のパターンは決まっているので、とにかく数多くあたることが重要だ。

世界史・・・日々の演習をまずは本番と思って本気で取り組むこと。間違えた問題は、その問題だけでなく、分野・テーマ全体を通した復習をすること。何度も同じ間違いをしないように時間をかけて、焦らずに、そしてじっくり取り組むことが大切です。その問題がどのような歴史的脈絡で、どのようなポイントで出題されているのか、出題者の意図をしっかりと読むことが、世界史の得点アップの秘訣です。

日本史・・・「センター試験過去問」を毎日一回分30日間解く。30日間毎日やることで問題傾向になれることができる。解けなかった問題を復習し、その問題をもう一度解く。曖昧になってしまっている所を確実にわかるようにする。センター試験本番で役に立つのは、100の曖昧な知識より50の確実な知識です。

地理・・・これからは、新しい問題集に着手するのではなく、既に解き終えた箇所を見返していくことが効果的です。注意が必要な最新データについては、授業で確認するので大丈夫です。基礎知識を整理するには、図表GEO（アンダーライン）を読み返すことがお勧めです。

理科

物理・・・具体的にすることは【①「チェック&演習」を始めから解き直す ②3年生で受けた模試の解き直し ③これから解くセンター対策問題1つ1つを完全に理解していく】ことです。これからは、どれだけ問題に慣れ、解答の流れをつかめるかがポイントです。まずは、真剣に問題演習に取り組み、そして解いた問題を丁寧に見直していきましょう。

化学・・・センター試験に向けての勉強法は、まんべんなく勉強することです。物理化学（固体・気体・溶液）、理論、無機、有機について、できるだけ解答を見ずに図説や参考書を調べて、毎日各分野1題ずつ問題を解きましょう。最後に暗記を詰め込もうと考える人が多いのですが、せっかく培ってきた計算の勘がなくなるとは元も子もありません（この計算の勘も大事な実力のうちです）。「学問に王道はなし」本番まで一步一步確実に歩んでください。

生物・・・センターに向けて演習を進めていきますが、知識がバラバラにならないよう、体系立てて整理することを心がけましょう。①新しい知識が出てきたり、勘違いに気付いた時にメモするものは統一する（あちこちにメモしない）。②大問ごとに分野がはっきり分かれていますので、分野ごとで得手不得手を把握していく。「日々の演習を、時間を気にしながら&雑にならずに緊張感をもって解くことを積み上げていきましょう。考察は知識ありきですが、さらに正確に判断していくためにも、演習で生物にどっぷり浸かり、生物学的な考え方を鍛えましょう。」